

リヨン領事事務所活動報告「日本語と日本文化 その底流にあるもの / Impressions du Japon 2016」特集（平成 27 年 10 月 24 日号【第 22 号】）

在リヨン領事事務所は、10 月 5 日から 21 日まで「日本語と日本文化 その底流にあるもの Impressions du Japon 2016」を、リヨン国立オペラ座とリヨン 3 区区役所を中心に開催しました。

本フェスティバルのタイトル中の「底流」とは、表層では目に見えない部分を指しています。目に見えないもの、明らかではないものを大切にしている日本人の心、ハーモニーや、日本文化の底流に流れる伝統的な精神文化・美意識。そこに光をあてるのが、今回のフェスティバル「日本語と日本文化 その底流にあるもの / Impressions du Japon 2016」の目的です。

オペラ座での人形浄瑠璃やいけばなの展示・デモンストレーションから書道の展覧会まで、様々な文化プログラムを通じて、日本文化の底流に静かに、深く、脈々と流れている日本の心やハーモニーに対する理解を少しでも深めて頂けたら、というのが私どもの願いでした。

10 月 5 日（水）・6 日（木）

●佐渡島人形浄瑠璃猿八座公演（リヨン国立オペラ座 アンフィテートル）

リヨン国立オペラ座のアンフィテートルで、無形民族文化財である佐渡島人形浄瑠璃猿八座のリヨン初公演が行われました。満席の会場には家族連れの姿も多くみられ、子どもたちは、アンフィテートルの床に用意されたクッションに腰掛けながら熱心に舞台に見入っていました。

公演後は、人形遣いの皆さんと話したり、人形や楽器を間近で見たり触れたりすることの出来る時間が設けられ、来場者の皆さんは、新潟からはるばる来られた猿八座の皆さんに、通訳を介して様々な質問を投げかけたり、三味線に触れたりして、リヨンで初めて紹介される無形民族文化財を堪能しておられました。

猿八座の皆さんは、「また必ずリヨンに戻って来ます」との言葉とともに、Maison des cultures du monde 主催の Festival de l'imaginaire に参加するため、パリに発たれました。





10月5日（水）～8日（土）

●小原流生け花協会 生け花展示とデモンストレーション（リヨン国立オペラ座 アンフィテートル）

小原流生け花協会による生け花展示とデモンストレーションが、当事務所とリヨンオペラ座の共催イベントとして行われ、伝統ある小原流の生け花が、文字通り公演に華を添えました。10月5日と7日には協会会員によるデモンストレーションがアンフィテートルで行われ、来場者は、静謐な雰囲気の中、会員が花を生ける様子を、固唾をのんで見守りました。入念な事前準備をされたにも関わらず花材が思い通りにならず、どうなることかと一瞬はらはらする場面もありましたが、最終的には美しい仕上がりとなり、しんと静まり返った室内で花材に真摯に向き合う会員の姿に、皆、一様に感銘を受けました。

デモンストレーション終了後、オペラ座とリヨン領事事務所共催レセプションが行われ、関係者やお客様は、美しい生け花展示を楽しみながら、宮本聖作シェフの日本料理を堪能しました。





10月11日（火）～21日（金）

- 書道展「Souffle de Pinceau – l'Art de la calligraphie japonaise」 亀谷鶴嶂氏（NPO 法人日本書芸術振興団会長）監修（於リヨン3区区役所）

リヨン3区区役所で、亀谷鶴嶂氏監修による書道展「Souffle de Pinceau – l'Art de la calligraphie japonaise」が行われました。世界の文字学と文字美について長年研究されて来た亀谷氏は、書芸術の素晴らしさと魅力を日本や海外で広めるため、自らが主宰するNPO 法人日本書芸術振興団を通じて、書の展覧会やアトリエ（ワークショップ）を積極的に行っています。

同振興団にとって初のリヨン展となる書道展「Souffle de Pinceau – l'Art de la calligraphie japonaise」で来場者にお見せしたのは、「字をお手本通りに書く」習字ではなく、文字本来の喜びを体感し、表現する書道芸術、即ち、文字自体に息吹を吹き込む活動、文字にもう一度、命を与える活動

です。

日本語のもつ多様性、また、亀甲獣骨文字から始まり隷書体、草書体、行書体、楷書体、仮名体、と様々な変遷を遂げてきた日本の文字の歴史やその魅力を、書道展やアトリエなど様々なアプローチでひもとく亀谷氏の活動が、今回の展覧会を機に、今後もリヨンで継続して行われることを期待します。



10月11日(火)

● « 日本語と日本文化 その底流にあるもの / Impressions du Japon 2016 »レセプション (於リヨン3区区役所)

リヨン第3区区役所にて、日仏友好レセプションの一環として« 日本語と日本文化 その底流にあるもの / Impressions du Japon 2016 »のレセプションが行われました。

当日は書道展 « Souffle de Pinceau – l'Art de la calligraphie japonaise »のヴェルニサーージュも兼ねていました。

リヨンの市内内外の文化人・識者が 150 名程出席する中、ジェローム・マレスキー文化担当官、小林所長の挨拶に続き、亀谷鶴嶂氏が挨拶されました。

レセプションでは、亀谷鶴嶂氏の個展 « La Symphonie (Thème et variations) » が特別公開されました。日仏財界、文化関係出席者は、新進気鋭の日本人シェフ宮本聖作氏による、妥協のない本物の日本料理を味わいながら、由緒ある Salle de Conseil の会場に幻想的な照明で浮かび上がる亀谷氏の作品のハーモニーを、心ゆくまで堪能しました。



10月12日（水）

●日本に関する特別講義（アンペール高校）

リヨン市 2 区のアンペール高校 Salle Lorenti で、同校で日本語を学ぶフランス人生徒と教員を対象に、日本に関する特別講義が行われました。小林所長の「日本の外交」と題する講義に続き、米山悦夫 EMLyon 元教授が「日本の経済」に関する講義を行いました。生徒たちが全員真剣な眼差しで、日本と世界の外交の歴史に関する講義に耳を傾け、懸命にノートを取る姿が印象的でした。また、米山教授

による講義では、日本の資本主義の原点がフランスのサン＝シモン主義にあること、日本は世界で最も長寿企業の数が多いがその秘訣は、稲畑勝太郎の「敬天愛人」という言葉に表されるように、人間は互いに兄弟として行動し、富者は貧者を救済すべきであるとする人道主義にあることを学びました。

後半では、まずパリ在住の舞踊家、西川市女裕氏による日本舞踊のデモンストレーションが行われ、先生の艶やかな着物姿に会場から感嘆のため息がもれました。踊りのデモンストレーションに続いて、生徒たちが舞台に上がり、お稽古用の扇を実際に手に持って踊りの初歩の手ほどきを受けました。舞台に乗り切らないほど大勢の生徒たちに、先生から「皆さん初めてなのににお上手ですね」とお褒めの言葉が掛けられ、生徒たちは大変嬉しそうでした。西川市女裕氏は、今回のリヨン初講義が縁となり、12月の天皇誕生祝賀レセプションでは日本舞踊を御披露頂く予定です。今後西川氏が、リヨンでの日仏文化交流にも貢献されることを期待します。

4時間に及ぶ特別講義の最後を締めくくったのは書家 亀谷鶴嶂氏です。日本の文字文化と書道芸術について、ペーパーボードに墨で手本を書きながらテンポ良く講義を進めていく先生に、生徒たちの真剣な眼差しが降りそそがれました。書道芸術とは何か、日本の文字の成り立ちの歴史と変遷について学び、生徒たちは皆、「日本の文化に対する関心が一層深まりました。」「非常にためになりました。これからも日本語の勉強を頑張ります。」と感激の言葉を述べていました。亀谷先生も生徒・教員たちとの交流を喜び、「今度はアトリエで実際に文字を書いて体験してもらいましょう。」と述べておられました。





10月11日（火）、12日（水）、17日（月）、18日（火）

●書道のアトリエ（3区メイニス小学校、3区 Maison de l'Enfance EST、及びリオンジェルラン国際学園）

リオン第3区区役所で公開中の書道展 « Souffle de Pinceau – l'Art de la calligraphie japonaise »と並行して、リオン市内3箇所で、書道のアトリエが実施されました。

受け入れ校は、3区メイニス小学校、3区 Maison de l'Enfance EST（学童保育所）、及びリオンジェルラン国際学園の3箇所で、CP/CE1（小2・小3）の児童から4ème（中2）の生徒までを対象に合計8回のアトリエが実施され、延べ182名の生徒が参加しました。

講師の先生方（亀谷氏、三木響花氏、山田妍月氏）は、日本の文字文化と書道芸術について、通訳を交えながらテンポ良く授業を進めて行きます。生徒たちは、年齢の大小に関わらず授業に集中し、先生からの質問にも積極的に答えていました。フランス人の児童・生徒達にとっては生まれて初めて手にする書道の道具。まず筆の持ち方から始め、次に墨をする練習、どの生徒も真剣な眼差しです。その後は実際に象形文字から楷書まで（中学生は金文、隸書、章草、行書も）、書いて行きました。初めて目にする日本の文字を見様見真似で、自らの感性を使って書く生徒達に、「それはいいね」「素晴らしい！」と先生から励ましの声が掛かると、生徒たちの目が輝きました。

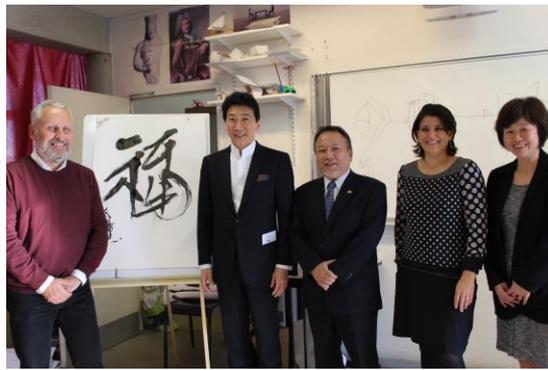
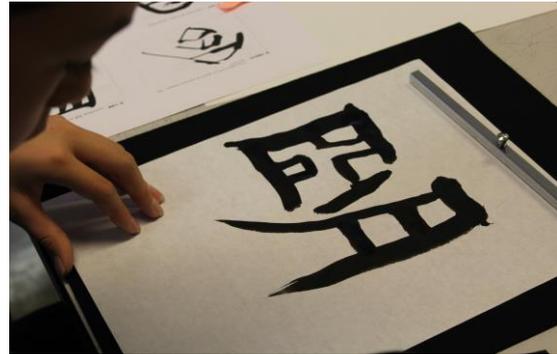
亀谷先生の書道アトリエでは、書に対する好奇心と、文字に接した時の素直な感情が何よりも大切にされ、また、書道の歴史に関する学び・知識の習得も重要視されます。紀元前1500年頃中国で生まれた象形文字が、中国で時代とともに変遷し、日本には3世紀頃、百済を経由して感じが中国から入ってきた事、その後日本で独自の発展と進化をし、ひらがな、カタカナを造り出しながら日本特有の文字文化を形成して行った事を、体系的に理解することにより、芸術としての書への理解を促す、非常に斬新なア

ブローチです。

生まれて初めて書の世界を体験したフランス人の生徒たちは、芸術としての書の魅力にまさにとりつかれ、授業終了の合図があった後も「まだ続けたい」と懸命に書き続ける生徒が続出しました。書き上げた半紙に自分の名前をサインし、大事そうに包んで持って帰る生徒たちの顔は、生まれて初めて書道芸術に触れた感動と満足感に満たされていました。

リオンジェルラン国際学園を後にした亀谷氏と小林所長は、3 区区役所でティエリー・フィリップ区長と面会しました。フィリップ区長からは、中国と日本の書道の歴史と発展について質問があり、亀谷氏の説明に熱心に耳を傾けていました。その後、亀谷氏から感謝の気持ちをこめて作品をリオン 3 区区役所に寄贈する旨申し出があり、区長自らが「直感で」篆書体（てんしょたい）の掛け軸を選ばれました。





● 主な報道ぶり

リヨン市月刊情報誌「リヨン・シトワヤン」10月

リヨン市ウェブサイト 2016年10月文化イベント覧

AGENDA

JUSQU'AU 15 OCTOBRE, le Centre social Bonnefoi fête ses 10 ans. Toute la semaine, de **10H À 12H ET DE 14H À 18H**, venez découvrir ses activités. **LE 11 OCTOBRE À 18H**, au Centre social Bonnefoi, conférence-débat sur l'évolution urbaine du quartier. **LE 14 OCTOBRE À 9H**, rendez-vous place Guichard pour une balade patrimoniale dans le quartier, **À 14H**, à la Taverne Gutenberg (5 rue de l'Épée) pour un atelier peinture pour parents et enfants, et **À 17H**, place Bahadourian pour une initiation gratuite à la capoeira pour les 7-15 ans. **LE 15 OCTOBRE**, journée portes ouvertes au Centre social Bonnefoi : visite de l'exposition *Une maison commune du quartier*, atelier peinture, photo, diffusion de films d'archives... 5 rue Bonnefoi et 11 rue Turenne. (lire aussi p.21)

JUSQU'AU 22 OCTOBRE, exposition *Souffle de pinceau, l'art de la calligraphie japonaise*, organisée en partenariat avec le bureau consulaire du Japon dans le cadre du festival Impressions du Japon. Vernissage le 11 octobre à 18h30 en présence de Maître Kakusho. À la mairie.

JUSQU'AU 23 OCTOBRE, 5^e exposition collective autour du thème *Parole en friche* à la

Festival Impressions du Japon

Les 5 et 7 octobre 2016, Opéra de Lyon



L'Ikebana un art traditionnel... Praticé au Japon depuis plus de 600 ans, cet art prend son origine dans les temples. Au fil des siècles son évolution a donné naissance de nombreuses écoles, dont l'école Ohara. Le mot Ikebana peut se traduire par « l'art de faire vivre les fleurs »

Créée en 1972, l'association Art Floral Japonais de Lyon dispense à une centaine d'élèves, des cours mensuels d'initiation et de perfectionnement selon le cursus de l'école Ohara de Tokyo. L'association organise aussi des manifestations adressées

à un public plus large : expositions, stage, journée de formation ...
Contact : ikeohara.lyon@laposte.net

Localisation et informations sur l'événement

Quand ? Du 05/10/16 au 07/10/16 - mer 5 oct 2016 - 18h30 - ven 7 oct 2016 - 12h30

Où ? Opéra national de Lyon
1 place de la Comédie
69001 Lyon

+ d'infos Gratuit

Agenda
Aujourd'hui
Cette semaine
Ce mois

Liens utiles
Site de l'Opéra

Accueil > A LA UNE > LYON 3°: EXPOSITION « SOUFFLE DE PINCEAU »
ou L'Art de la Calligraphie japonaise



LYON 3°: EXPOSITION « SOUFFLE DE PINCEAU » OU L'ART DE LA CALLIGRAPHIE JAPONAISE

**Exposition organisée du 11 au 21 octobre
2016 à la Mairie du 3° par le Bureau
Consulaire du Japon à Lyon dans le cadre
du festival « Impressions du Japon ».**

Cette première exposition d'art graphique mondial sera organisée par l'Association du Développement de l'Art Calligraphique Japonais, dont le président est le calligraphe Kakusho KAMETANI, dans les locaux de la mairie du 3° arrondissement de Lyon.

L'art de la calligraphie sera présenté à Lyon à travers une exposition regroupant une sélection de près de 200 œuvres qui ont été primées à l'occasion d'un concours de calligraphie au Japon.

Parallèlement à l'exposition, l'Association du Développement de l'Art Calligraphique Japonais assurera également des ateliers de calligraphie à l'attention d'écoliers de l'école primaire et de collégiens (Ateliers non ouverts au grand public).

L'Association du Développement de l'Art Calligraphique Japonais, (dont le maître de calligraphie Kakusho KAMETANI est le président) organise une exposition qui a pour but de faire découvrir aux lyonnais la splendeur et le charme de la calligraphie, « art temporel ». Cette Association a à cœur de faire découvrir aux français la vraie nature de la calligraphie, un art fondamentalement différent de l'acte d'écrire qui consiste principalement à rédiger avec soin sans faire de fautes, alors que la calligraphie est un « art temporel », c'est-à-dire qui change au cours du temps, comme la musique ou la danse. A travers ses activités, l'Association s'est donné pour objectif de diffuser largement l'art de la calligraphie au Japon, mais aussi à l'étranger tout en expliquant l'histoire de l'écriture et de l'évolution des caractères au Japon. En organisant pour la 1^o fois cette exposition à Lyon, l'Association du Développement de l'Art Calligraphique japonais espère faire découvrir et apprécier aux lyonnais, le charme, la richesse et l'originalité de la calligraphie japonaise par le biais d'une sélection d'environ 200 œuvres réalisées par des disciples de maître KAMETANI, mais aussi par des gens

ordinaires, du jeune enfant à l'adulte, qui ont été primées à l'occasion d'un concours de calligraphie au Japon.

▪ **Du 11 au 21 octobre (lundi au vendredi : 8 h 45/16 h 45) & samedi : 9 h /12 h. dimanche : fermé**

Dans le 3° arrondissement, Maître Kakushô interviendra à la Maison de l'Enfance Est le mercredi 12 octobre.

– **Le vernissage de l'exposition aura lieu le mardi 11 octobre à 18 h 30, en présence de Maître Kakushô.**

Plus d'infos sur: <http://k-kakusho.com/en/about/>
Gratuit, pour tout public

f FACEBOOK t TWITTER g+ GOOGLE+ in LINKEDIN
t TUMBLR @ PINTEREST ✉ MAIL



Précédente NEWS
**GENAS : "Fête
de la science" et
"Genas a un
incroyable
talent"**



NEWS suivante
**VAULX EN
VELIN :
Inscriptions
encore
possibles dans
divers ateliers
de la MJC**



RÉDAC. NEWS



【最後に】

« Impressions du Japon 2016 »では、目に見えない日本人の心を探ることを目指しました。それは、ロラン・バルトが著書「表徴の帝国/L'Empire des signes」の中でも述べているように、西洋世界が「意味の帝国」であるのに対し、日本は「表徴の帝国」だということにもつながります。

言い換えれば、日本人は、心の中にあるもの、見えないものに対し、常に、畏敬の念、配慮の気持ちを持っています。日本人の共通了解事項である、この、見えないものを大切にする心、ハーモニー。これこそが、日本文化の底流に、静かに、深く、脈々と流れているものなのです。

外国人が日本文化を理解する上で最もハードルの高い壁は、実は、この「日本文化の底流」と言えるでしょう。逆に言えば、この「壁」を乗り越えられた時、初めて、日本文化の魅力が、皆様の心の中にどっとなだれこむことと思います。

本フェスティバルが、そのような大きな catalyse（触媒効果）を起こすきっかけとなったことを、心より望んでおります。

最後になりましたが、« 日本語と日本文化 その底流にあるもの Impressions du Japon 2016 » はリヨン国立オペラ座、リヨン第 3 区区役所の御協力により実現出来ました。この場をお借りして、オペラ座のセルジュ・ドルニー総支配人、アンフィテートルディレクターのフランソワ・ポステール氏、3 区区役所ティエリー・フィリップ区長及びスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

また本事業に御協力頂いた全ての方、そして書道展のボランティアをされた方々にも、心から感謝申し上げます。